

会員近況



大東京火災海上保険
営業総括室

鍋井 勝

損保業界のアクチュアリーの一として進むべき道を模索している昨今です。生命保険会社・信託銀行のアクチュアリーと異なり職務は明確になっていませんが、またそれゆえに幅広い活躍もできる環境にあります。

たとえば、保険種目別営業分析・収益管理、再保険の手法、人員・店舗モデル等ORを利用するチャンスは非常にあるといえます。しかしながら、ORを利用する以前の本質を見抜く洞察力・分析力が私自身、未熟であることと、また、ORとは何かを素人にわからせるためのPR手法が身につけていないという理由から、现阶段では案を眠らせている状態です。

仕事とは別に現在、年金問題について関心もっています。公的年金の財政危機が叫ばれている今日、年金制度（これはすべての国民に関心があるはずだが）が保険数理はもとより、もっと広くOR手法を駆使して論じられてもよいのではないかと感じている。自分の老後ORしてみるのも興味があります。（私はまだ28歳ですが……）

住友金属工業
南島製鉄所システム部

大西 英行

学生時代、「コンピュータに学習させて人間並みのことができないのか」なんて考えてコンピュータと遊んでいたことがあった。そのせい入社してからもコンピュータとは縁が切れず、ずっとシステム開発の仕事を担当しているが、コンピュータに学習させるどころか仕事のイロハを教えるのも並み大抵ではないと痛感するこの頃である。

それなら人間に学習させようというのでもないが、少し前から仕事のかたわら「統計技法」の教育を担当している。なれない勉強に四苦八苦しているのをひた隠し理

論は未消化ながら何とか嗜好をつけているため、会社では“統計の権威？”となっているようである。解析手法ではなかでも〇×式のギャンブル的発想が好まれるのか、判別分析がなかなか好評である。回帰分析とは違うおもしろさがあり当り外れが分かる前にはまるで宝くじの抽選でも待っているような心境になるらしい。今まで、製品の肉質不良、スラブ表面疵、設備故障等々に適用しすでにそのいくつかは現場のコンピュータの中に納め、不良発生防止に役立っている。人間でもコンピュータでも比較的簡単に学習させることができるのは、どうもこうした式の作成・修正程度までのようだ。蛇足ながら私自身、“学習する機械”ならぬ“学習させる機械”にならぬよう心掛けたいと思う。

(株)垂細垂針布研究所 北村機市郎

昭和23年自治法の改正で行政をみる機会に出会い企業と較べ学際的考が非常に遅れ、また欧米と較べて都市国家から発達して住民の手で自治が行なわれ民主主義の育った国の組織活動の違いが浮彫に思えた。そのうちに住民運動がさかんになり話し合いの場に出て気づいたのは問題前の一工程あるいは数工程の処理のないこと。分化された専門家だけで処理し、無理を生じ都市問題の解決にならずますます輻輳している。法律、組織、社会、その他多くの学問を科学的に、交通、公害等に必要都市空間も学際的な研究を怠り分化した専門家の発言が強くて大切な先人が科学したか貴い経験から組立てたか時代を先取した民主主義行為も一辺の検討もなく破棄して大切な民主主義が失われている。都市は一つのルツボで多元素の市民で立派な民主主義の合金ができ、国、府、県、都市の大きな組織が天体のように美しく流転するため幅広い学際研究が大切で、ORの皆さん一層の研究をお希いします。「進歩と調和」を忘れないで。